



ASR-P52N iOS Demo

ユーザーマニュアル

Copyright © Asterisk Inc. All Rights Reserved.

AsReader® は株式会社アスタリスクの登録商標です。

本書の内容に関しては、仕様改良などにより予告無しに変更することがあります。

変更履歴

バージョン	説明	日付
V1.0	新規作成	2023/5/23

目次

1. 画面説明.....	6
2. 接続方法.....	7
3. 使用方法.....	8
3.1. RF タグのインベントリ.....	8
3.2. RF タグのインベントリの停止.....	10
3.3. インベントリしたデータのクリア.....	11
3.4. タグのインベントリ.....	12
3.4.1. インベントリ画面.....	12
3.4.2. インベントリタグのパラメータを設定.....	13
3.4.3. タグの読取.....	15
3.5. タグの書き込み.....	16
3.5.1. タグの書き込み画面.....	16
3.5.2. 書き込みパラメータの設定.....	17
3.5.3. タグの書き込み.....	19
3.5.4. アクセスパスワードの変更.....	19
3.5.5. キルパスワードの変更.....	20
3.6. タグのロック/アンロック/永久ロック/永久アンロック.....	21
3.6.1. タグのロック/アンロック/永久ロック/永久アンロック画面.....	21
3.6.2. タグのロック/アンロック/永久ロック/永久アンロックパラメータの設定.....	22
3.6.3. ロック/アンロック/永久ロック/永久アンロック.....	24
3.7. タグのキル.....	25
3.7.1. キル画面.....	25
3.7.2. タグのキルパラメータの設定.....	26
3.7.3. タグのキル.....	28
4. 設定.....	29
4.1. RFID settings.....	30
4.1.1. ContinueScan.....	30
4.1.2. Inventory Type.....	30
4.1.3. Antennas.....	31
4.1.4. Base band.....	32
4.1.5. Auto dormancy.....	33
4.1.6. Frequency list.....	34
4.1.7. Filter.....	35
4.1.8. Mask.....	36
4.2. Device settings.....	39

4.2.1. Ethernet Mac	39
4.2.2. Reader time	39
4.2.3. Ethernet IP	39
4.3. Basic settings	41
4.3.1. Information	41
4.3.2. Factory reset	42
4.3.3. Restart the device	42

はじめに

本書では ASR-P52N iOS Demo App の正しい操作方法について記述しています。ご使用前に、必ずお読みください。この操作説明書に関するご意見、ご質問は下記へご連絡ください。

サポートセンター

〒532-0013 大阪府大阪市淀川区木川西 2 丁目 2-1

AsTech Osaka Building 5 階

TEL: +81 (0) 50 5536 8733

ASR-P52N Demo App について

ASR-P52N Demo App（以下アプリケーションと表記）は弊社製品 ASR-P52N をご使用の際に利用できるアプリケーションです。

アプリケーションは以下からダウンロードしてご利用ください。

<http://asreader.jp/downloads/asr-p52n/>

注：ASR-P52N Demo App は ASR-P52N の専用デモアプリです。

1. 画面説明

接続可能な IP の検索 Search P52N More
 設定
 ASR-P52N の IP IP: 192.168.10.128 Connect
 接続ボタン Port: 8160 Disconnect
 ポート番号
 切断ボタン EPC:123411700000020CE0CE9C28
 EPC 値 TID:E28011702000142819D3099C
 TID/USER/Moisture/MagnusS3 値 PC:3400 ANT:1 Phase:39
 PC 値 Channel:920400 RSSI:-30 Count:179
 アンテナポート番号 EPC:9000770033334444E0CFC457
 周波数 TID:E28011702000045719F8099C
 位相 PC:3400 ANT:1 Phase:194
 信号の強さ Channel:920400 RSSI:-41 Count:177
 同一 RF タグ読み取りされた回数
 クリアボタン
 読み取った RF タグの総回数
 インベントリ停止ボタン
 インベントリ開始ボタン
 読み取った RF タグの合計枚数
 Count: 2 Total: 356
 Start Stop Clear
 ASR-P52N の温度 32.95°C SDK Version:1.0.2 APP Version:1.0.0 Build:4
 SDK バージョン
 APP バージョン

2. 接続方法

方法 1 : アプリケーションを起動します。Port はデフォルトの 8160 で、左上の「Search」ボタンをタップし、同じネットワークセグメントの ASR-P52N を検索します（検索時間を設定可能、設定範囲は 10~60s）。リストで ASR-P52N の IP を表示します。該当するの IP をタップして、接続を行います。

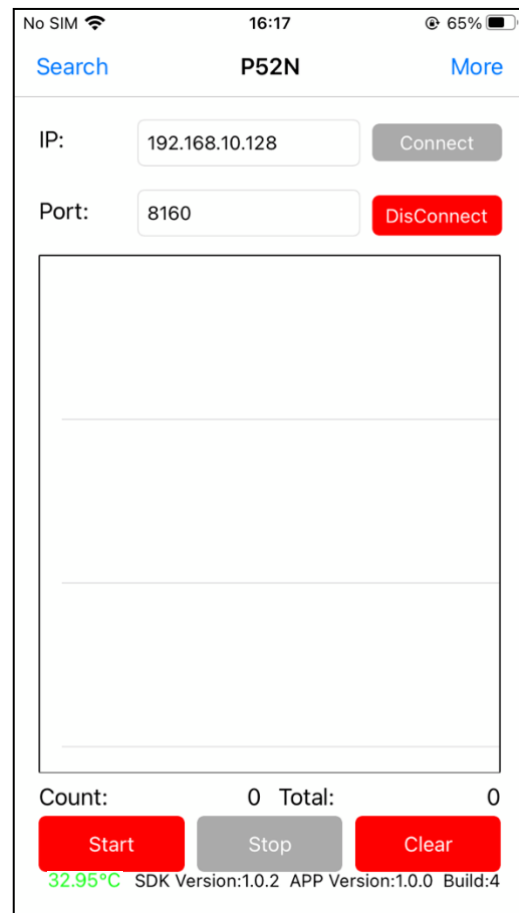
方法 2 : アプリケーションを起動して、接続可能な ASR-P52N の IP を入力し、Port はデフォルトの 8160 のまま「Connect」ボタンをタップして、接続を行います。

接続に成功すると、下記のように表示されます。

※未接続の状態では、アプリケーションを操作できません。



未接続

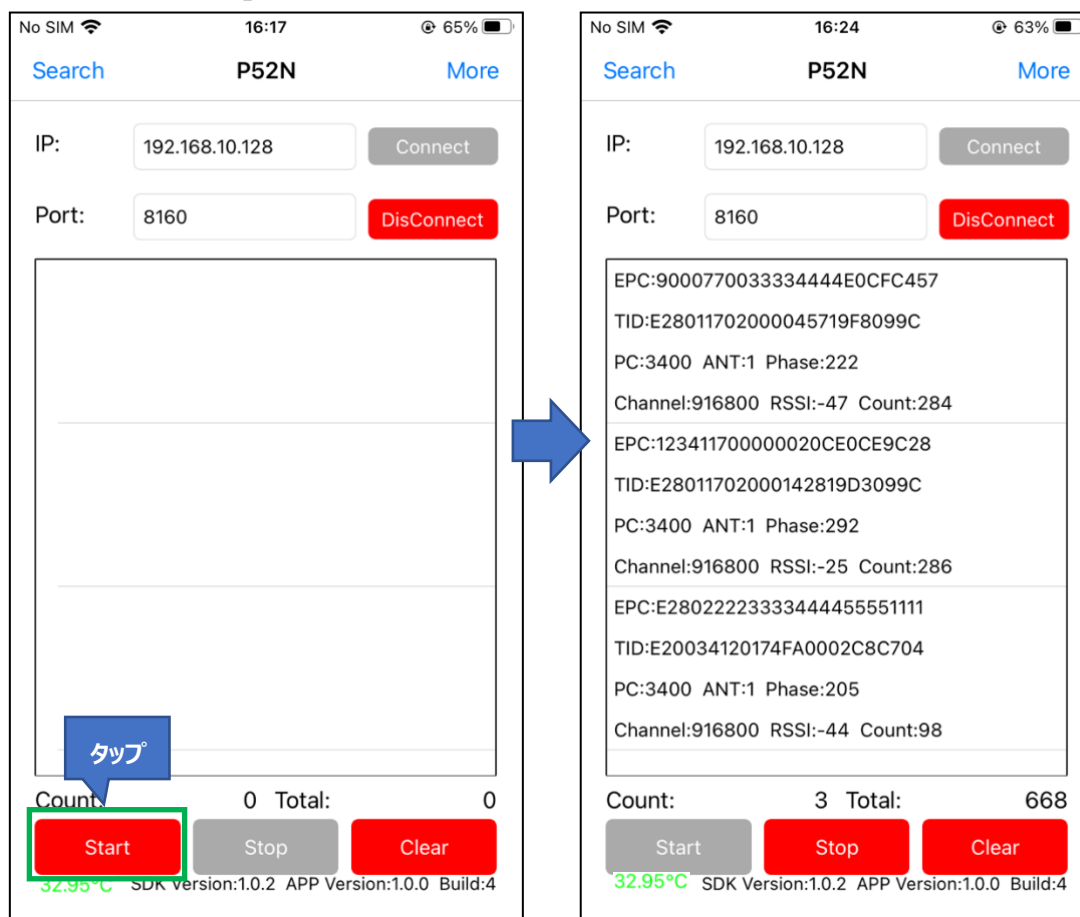


接続済み

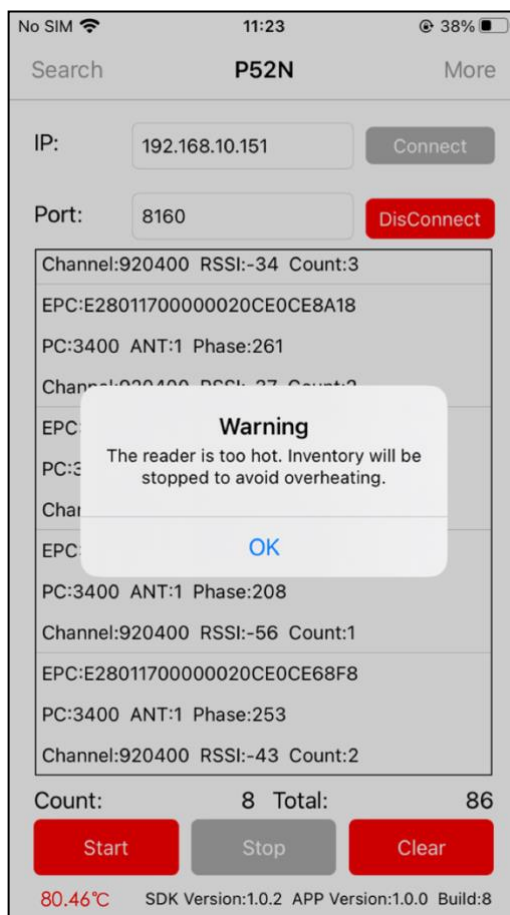
3. 使用方法

3.1. RF タグのインベントリ

下記左図の「Start」ボタンをタップします。

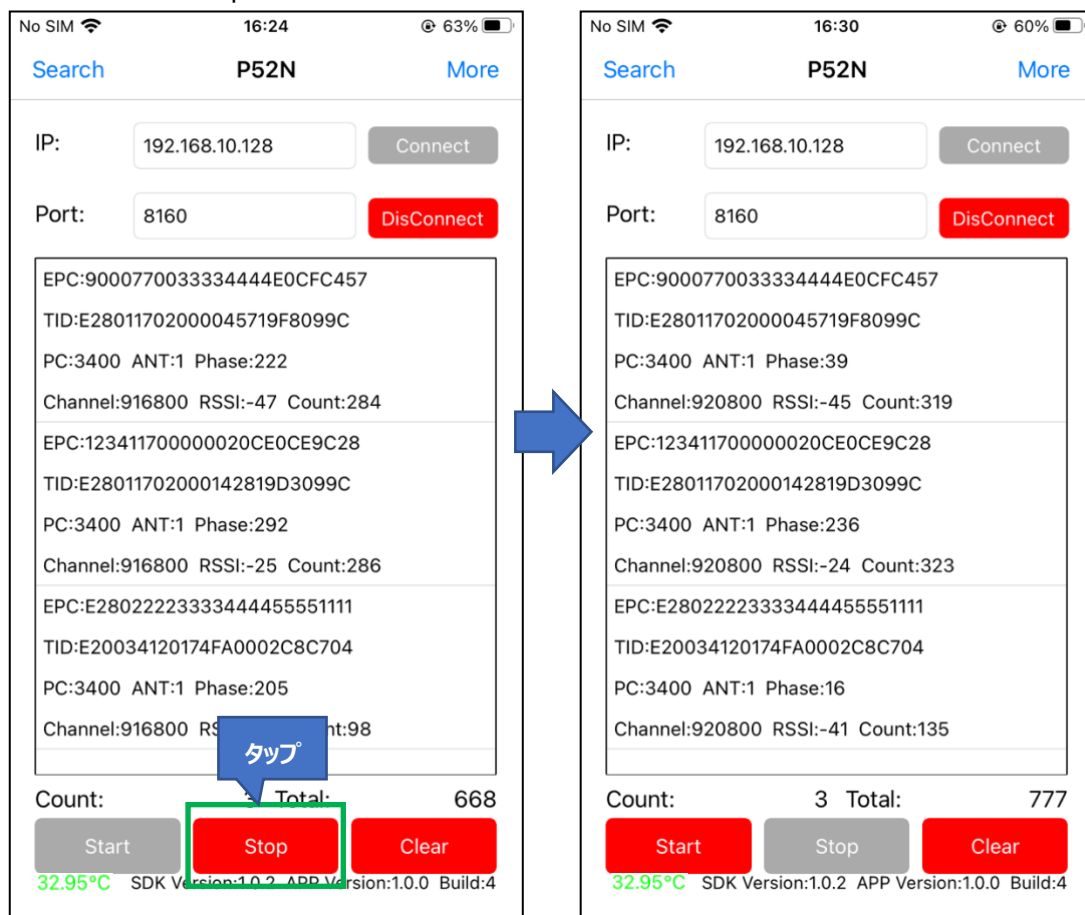


※RF タグをインベントリする時、ASR-P52N の温度が高温 (80°C 以上)になると、インベントリは自動的に停止され、次の警告メッセージがポップアップで表示されます。この時は、インベントリを行うことができません。「ASR-P52N」の温度が下がるのを待ってから、インベントリなどの操作を行ってください。



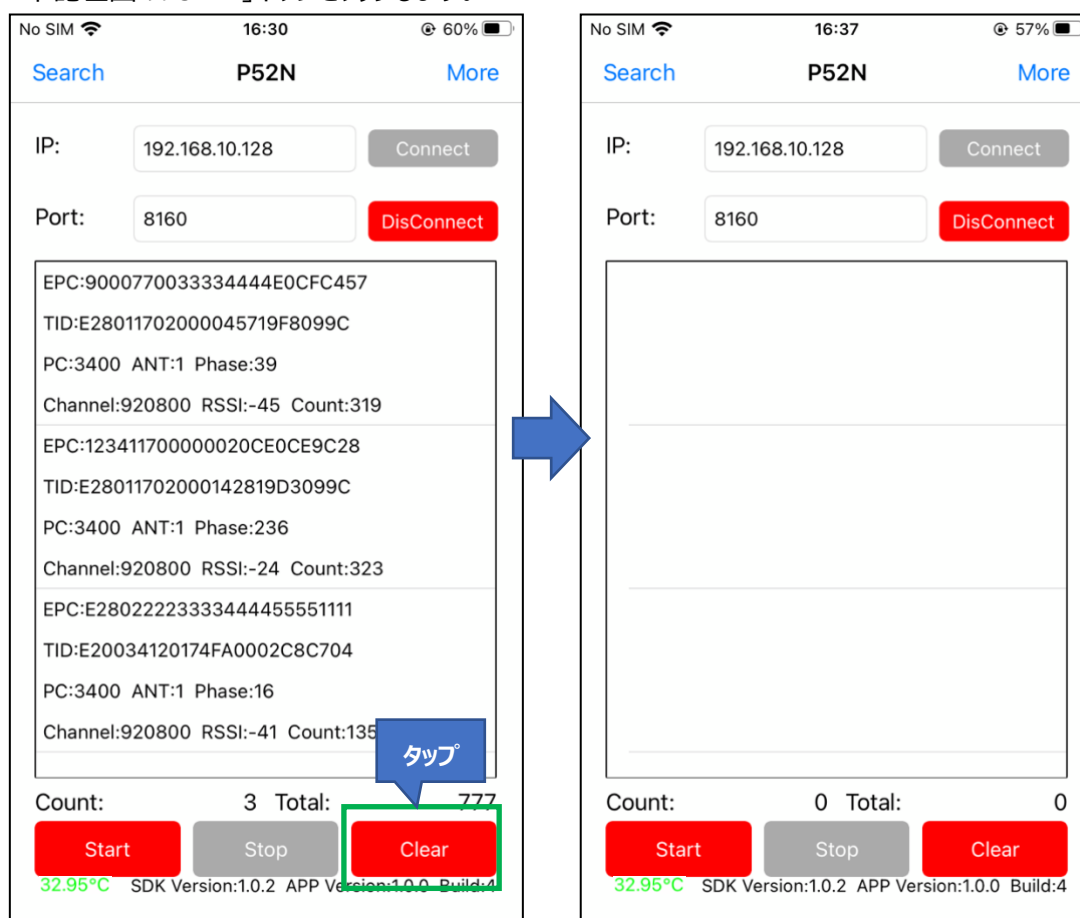
3.2. RF タグのインベントリの停止

下記左図の「Stop」ボタンをタップします。



3.3. インベントリしたデータのクリア

下記左図の「Clear」ボタンをタップします。

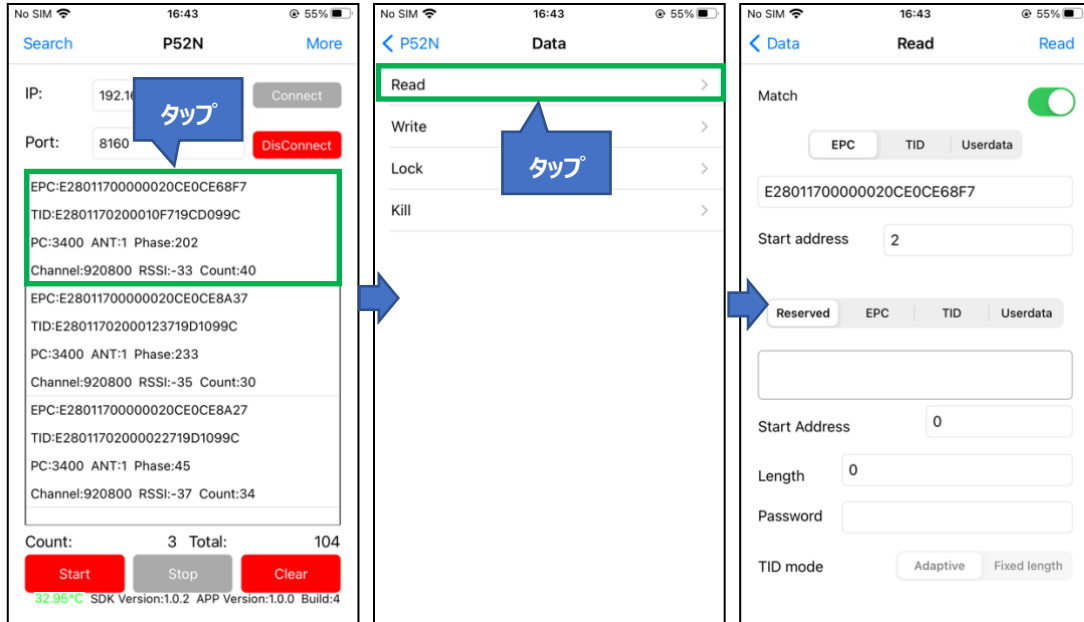


3.4. タグのインベントリ

3.4.1. インベントリ画面

タグリストに任意タグデータをタップして、Read/Write/Lock/Kill の選択画面に入ります。

「Read」ボタンをタップすると、Read 画面に入ります。



3.4.2. イベントリタグのパラメータを設定

The screenshot shows the 'Data Read' configuration screen. It is divided into two main sections: 'Filter Parameters' (フィルタパラメータ) and 'Read Parameters' (読取パラメータ). The 'Filter Parameters' section includes a 'Match' toggle (1), three filter bank buttons: 'EPC' (2), 'TID' (3), and 'Userdata' (4), and a text input field for the matching value (3) containing 'E280'. The 'Read Parameters' section includes three filter bank buttons: 'Reserved' (5), 'EPC' (6), and 'TID' (7), a text input field for 'Start Address' (7) containing '2', a text input field for 'Length' (8) containing '2', a text input field for 'Password' (9), and a 'TID mode' section with 'Adaptive' (10) and 'Fixed length' buttons.

フィルタパラメータ：

① Match

タグがマッチングするかどうかを設定します。

- ON：マッチングする。読み取り範囲内の条件（マッチング条件を含む）を満たすタグに対して読み取ります。
- OFF：マッチングしない。読み取り範囲内の任意のタグに対して読み取ります。

② EPC/TID/Userdata

マッチングバンクを設定します。

- EPC バンク
- TID バンク

※More→RFID Settings→Inventory Type を TID または USER に設定すると、TID バンクはマッチング条件として設定可能になります。

- USER バンク

※More→RFID Settings→Inventory Type を USER に設定すると、USER バンクはマッチング条件として設定可能になります。

③ マッチング値

マッチング値を設定します。選択した RF タグのマッチングバンク（EPC/TID/Userdata）の値がデフォルトで表示されます。

例：EPC バンクを選択した場合、「E28011700000020CE0CE68F7」を表示されます。

※入力したデータが WORD 単位でない場合、0 が自動的に後ろに埋められます。

例：1 を入力する場合、実際は 1000 でフィルタされます。

④ Start address

マッチング値のスタートアドレスを指定します。単位：ワード（WORD）。

- EPC バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：2）
- TID バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）
- USER バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）

サンプルデータ：

Match を「ON」に設定

EPC/TID/Userdata を「EPC」に設定

マッチング値を「E280」に設定

Start address を「2」に設定

解析結果：

対象タグの EPC バンクの 2Word から、値は「E280」のタグを読取します。

読取パラメータ：

⑤ Reserved/EPC/TID/Userdata

読取バンクを設定します。

- Reserved バンク：キルパスワード（0~1WORD の 2WORD）とアクセスパスワード（2~3WORD の 2WORD）で構成されます。
- EPC バンク
- TID バンク
- USER バンク

⑥ 読み取りデータ

読み取ったデータを表示します。

⑦ Start address

読取のスタートアドレスを指定します。単位：ワード（WORD）。

- EPC バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：2）
- TID バンク：スタートアドレスは 0 から（入力した値に関係なく、0 から読み取ります）
- USER バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）

- RESERVED バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）

例：2

⑧ Length

読み取るデータの長さを指定します。単位：ワード（WORD）

例：2

⑨ Password

アクセスパスワードを入力します。

タグの RESERVED バンクがロックされている場合、タグを読み取るにはアクセスパスワードの入力が必要です。他のロックされたバンクを読み取る場合にはアクセスパスワードは不要です。

⑩ TID mode

TID バンクを読み取る時のモードを設定します。

- Adaptive: 自動適応読取モード、Length に TID の長さを超える値を入力しても読み取れます。

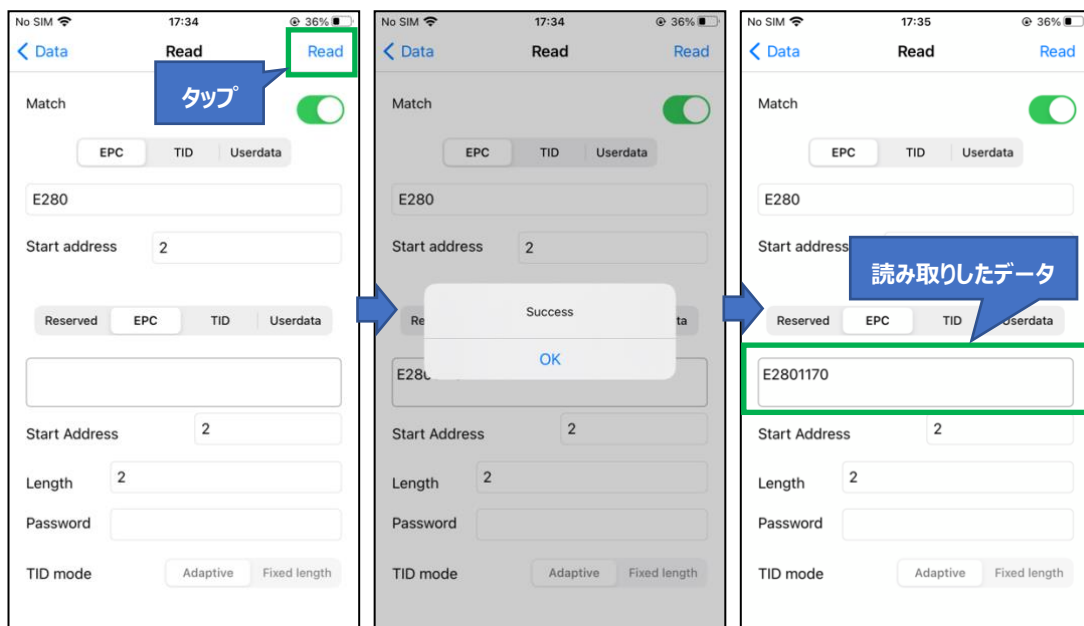
例：TID バンクの長さが 6 ワードで、Length に 7 を入力しても TID データが読み取れます。

- Fixed length: 固定長読取モード、Length に TID の長さを超える値を入力すると読み取れません。

例：TID バンクの長さが 6 ワードで、Length に 7 を入力すると TID データが読み取れません

3.4.3. タグの読取

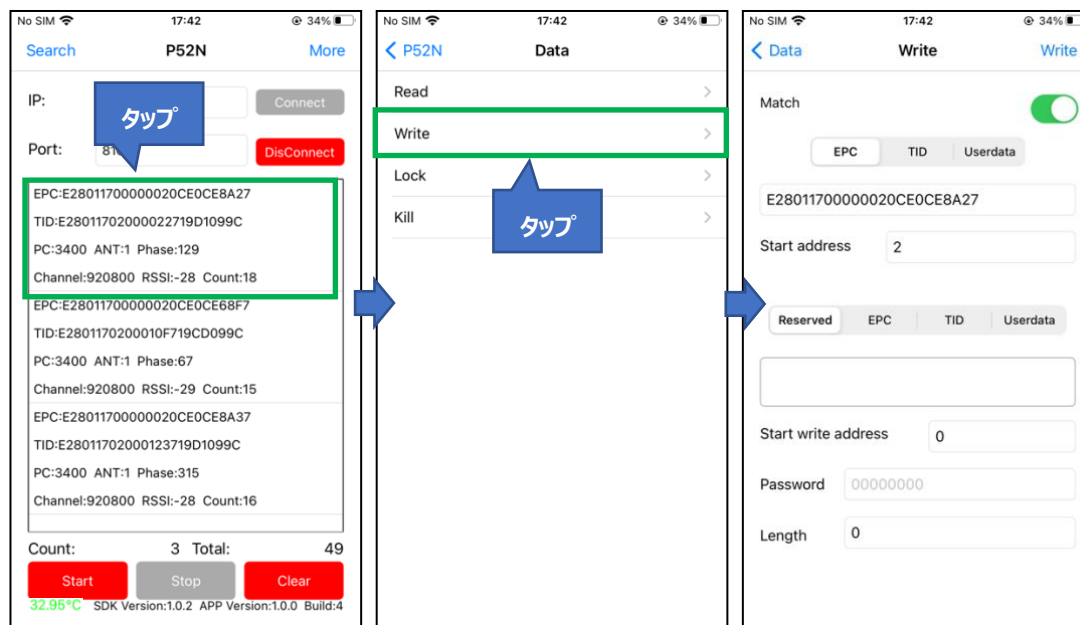
上記パラメータを設定した後、「Read」ボタンをタップしてタグを読み取ります。



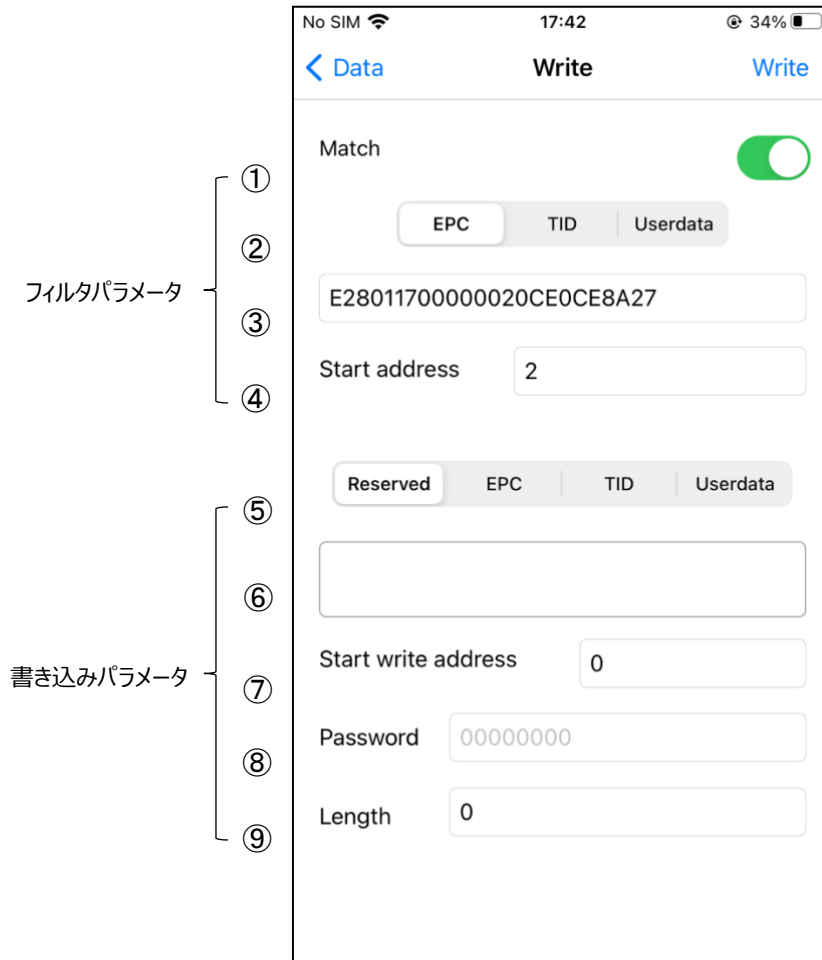
3.5. タグの書き込み

3.5.1. タグの書き込み画面

タグリストに表示されている任意タグをタップして、Read/Write/Lock/Kill の選択画面に入ります。
「Write」ボタンをタップして、Write 画面に入ります。



3.5.2. 書き込みパラメータの設定

**フィルタパラメータ：**

① Match

タグがマッチングするかどうかを設定します。

- ON：マッチングする。読み取り範囲内の条件（マッチング条件を含む）を満たすタグに対して書き込みます。
- OFF：マッチングしない。読み取り範囲内の任意のタグに対して書き込みます。

② EPC/TID/Userdata

マッチングバンクを設定します。

- EPC バンク
- TID バンク

※More→RFID Settings→Inventory Type を TID または USER に設定すると、TID バンクはマッチング条件として設定可能になります。

- USER バンク

※More→RFID Settings→Inventory Type を USER に設定すると、USER バンクはマッチング条件として設定可能になります。

③ マッチング値

マッチング値を設定します。選択した RF タグのマッチングバンク（EPC/TID/Userdata）の値がデフォルトで表示されます。

例：EPC バンクを選択する場合、「E28011700000020CE0CE8A27」を表示されます。

※入力したデータは WORD 単位でない場合、0 が自動的に後ろに埋められます。

例：1 を入力する場合、実際は 1000 でフィルタされます。

④ Start address

マッチング値のスタートアドレスを指定します。単位：ワード（WORD）。

- EPC バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：2）
- TID バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）
- USER バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）

サンプルデータ：

Match を「ON」に設定

EPC/TID/Userdata を「EPC」に設定

マッチング値を「E28011700000020CE0CE8A27」に設定

Start address を「2」に設定

解析結果：

対象タグの EPC バンクの 2Word から、値は「E28011700000020CE0CE8A27」のタグを読取ります。

書き込みパラメータ：

⑤ Reserved/EPC/TID/Userdata

書き込みバンクを設定します。

- Reserved バンク：キルパスワード（0~1WORD の 2WORD）とアクセスパスワード（2~3WORD の 2WORD）で構成されます。
- EPC バンク
- TID バンク
- USER バンク

⑥ 書き込みデータ

書き込みデータを入力します。

例：12345678

※入力したデータが WORD 単位でない場合、0 が自動的に後ろに埋められます。たとえば、1 を入力して [Write] ボタンをタップすると、実際に書き込まれるデータは 1000 になります。

⑦ Start write address

書き込みのスタートアドレスを指定します。単位：ワード（WORD）。

- Reserved バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）
- EPC バンク：スタートアドレスは 1 から（デフォルト値：2）
- スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）
- USER バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）

例：2

⑧ Password

アクセスパスワードを入力します。

ロックされた EPC/USER/RESERVED バンクにデータを書き込む場合、アクセスパスワードを入力する必要があります。

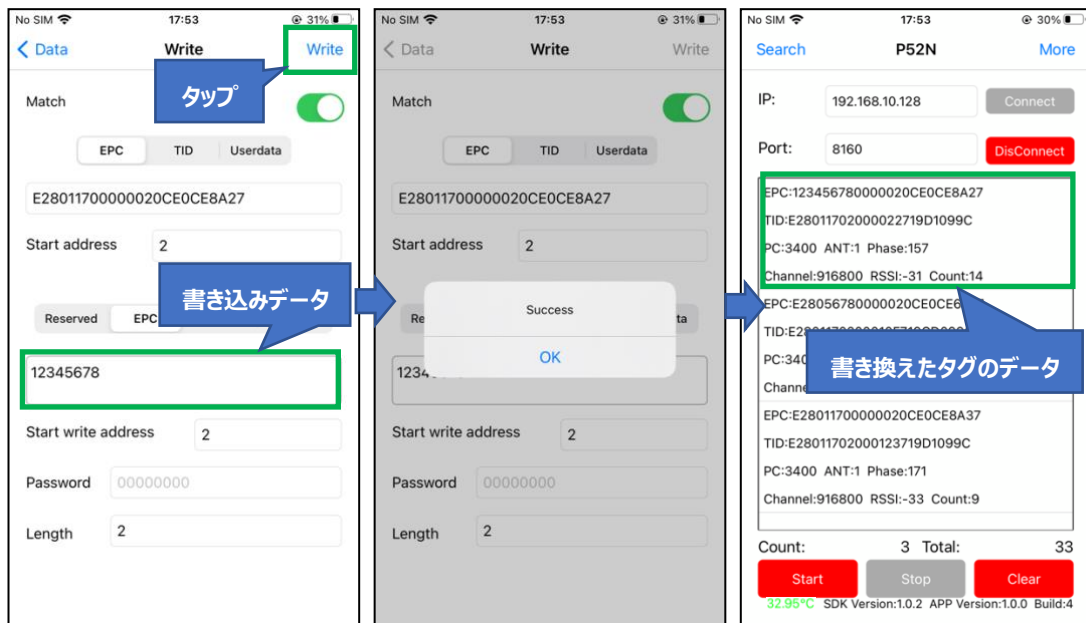
※TID バンクは工場出荷時にロックされており、読み取りのみ可能で、書き込みはできません。

⑨ Length

書き込みデータの長さを自動的に計算します（読み取り専用）。単位：ワード（WORD）。

3.5.3. タグの書き込み

上記パラメータを設定した後、「Write」ボタンをタップしてタグを書き込みます。



3.5.4. アクセスパスワードの変更

フィルタパラメータ：

「[3.5.2 書き込みパラメータの設定](#)」を参照して設定してください。

書き込みパラメータ：

- ① Reserved/EPC/TID/Userdata

書き込みバンクを Reserved に設定します。

② **書き込みデータ**

設定するアクセスパスワードを入力します。

例：12345678

③ **Start write address**

書き込みのスタートアドレス (2) を入力します。

④ **Password**

アクセスパスワードを入力します。アクセスパスワードがロックされていない場合、初期パスワード 00000000 を入力する、または空白です。

⑤ **Length**

書き込みデータの長さ (2) を自動的に計算します。

上記のパラメータを設定した後、「Write」ボタンをタップします。

3.5.5. キルパスワードの変更

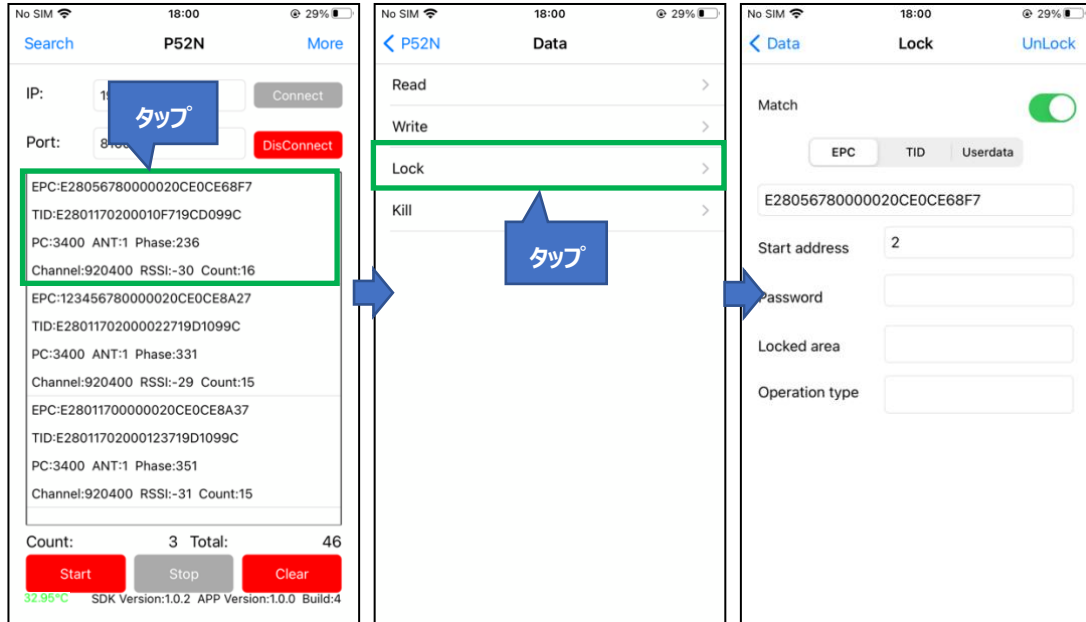
手順は「[3.5.4 アクセスパスワードの変更](#)」と同様です。

キルパスワードの Start write address は 0 です。

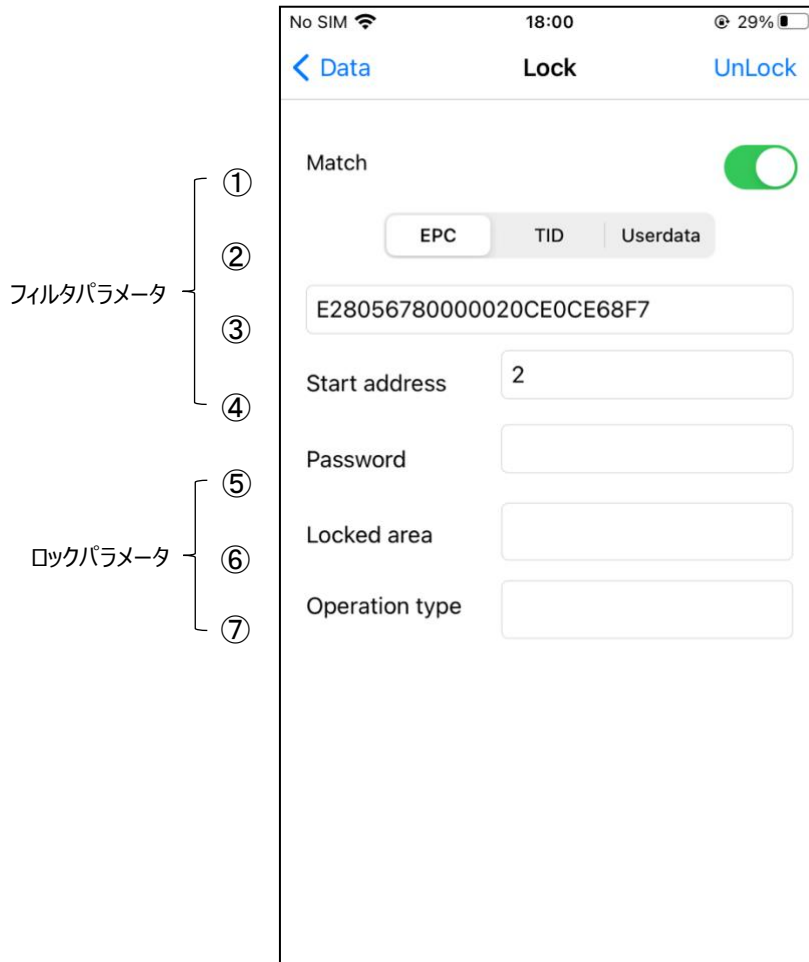
3.6. タグのロック/アンロック/永久ロック/永久アンロック

3.6.1. タグのロック/アンロック/永久ロック/永久アンロック画面

タグリストに表示されている任意データをタップして、Read/Write/Lock/Kill 画面に入ります。
「Lock」ボタンをタップして、Lock 画面に入ります。



3.6.2. タグのロック/アンロック/永久ロック/永久アンロックパラメータの設定



フィルタパラメータ：

① Match

タグがマッチングするかどうかを設定します。

- ON：マッチングする。読み取り範囲内の条件（マッチング条件を含む）を満たすタグに対してロック/永久ロック/アンロック/永久アンロックします。
- OFF：マッチングしない。読み取り範囲内の任意のタグに対してロック/永久ロック/アンロック/永久アンロックします。

② EPC/TID/Userdata

マッチングバンクを設定します。

- EPC バンク
- TID バンク

※More→RFID Settings→Inventory Type を TID または USER に設定すると、TID バンクはマッチング条件として設定可能になります。

- USER バンク

※More→RFID Settings→Inventory Type を USER に設定すれば、USER バンクはマッチング条件として設定可能になります。

③ マッチング値

マッチング値を設定します。選択した RF タグのマッチングバンク（EPC/TID/Userdata）の値がデフォルトで表示されます。

例：EPC バンクを選択する場合、「E28011700000020CE0CE68F7」を表示されます。

※入力したデータが WORD 単位でない場合、0 が自動的に後ろに埋められます。

例：1 を入力する場合、実際は 1000 でフィルタされます。

④ Start address

マッチング値のスタートアドレスを指定します。単位：ワード（WORD）

- EPC バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：2）
- TID バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）
- USER バンク：スタートアドレスは 0 から（デフォルト値：0）

サンプルデータ：

Match を「ON」に設定

EPC/TID/Userdata を「EPC」に設定

マッチング値を「E28011700000020CE0CE68F7」に設定

Start address を「2」に設定

解析結果：

対象タグの EPC バンクの 2Word から、値は「E28011700000020CE0CE68F7」のタグをロック/アンロック/永久ロック/永久アンロックします。

ロックパラメータ：

⑤ Password

アクセスパスワードが設定された RF タグの Reserved/EPC/Userdata バンクをロック/アンロック/永久ロック/永久アンロックする場合、アクセスパスワードを入力する必要があります。

※1、TID バンクは工場出荷時に永久ロックされています。

※2、アクセスパスワードは初期パスワードの場合、上記の操作は実行できません。先にアクセスパスワードを変更する必要があります。

⑥ Locked area

ロック/アンロック/永久ロック/永久アンロックするタグのバンクを設定します。

- Kill：キルパスワード、Reserved バンクの 0~1WORD
- Access：アクセスパスワード、Reserved バンクの 2~3WORD
- EPC バンク

- TID バンク
- USER バンク

⑦ Operation type

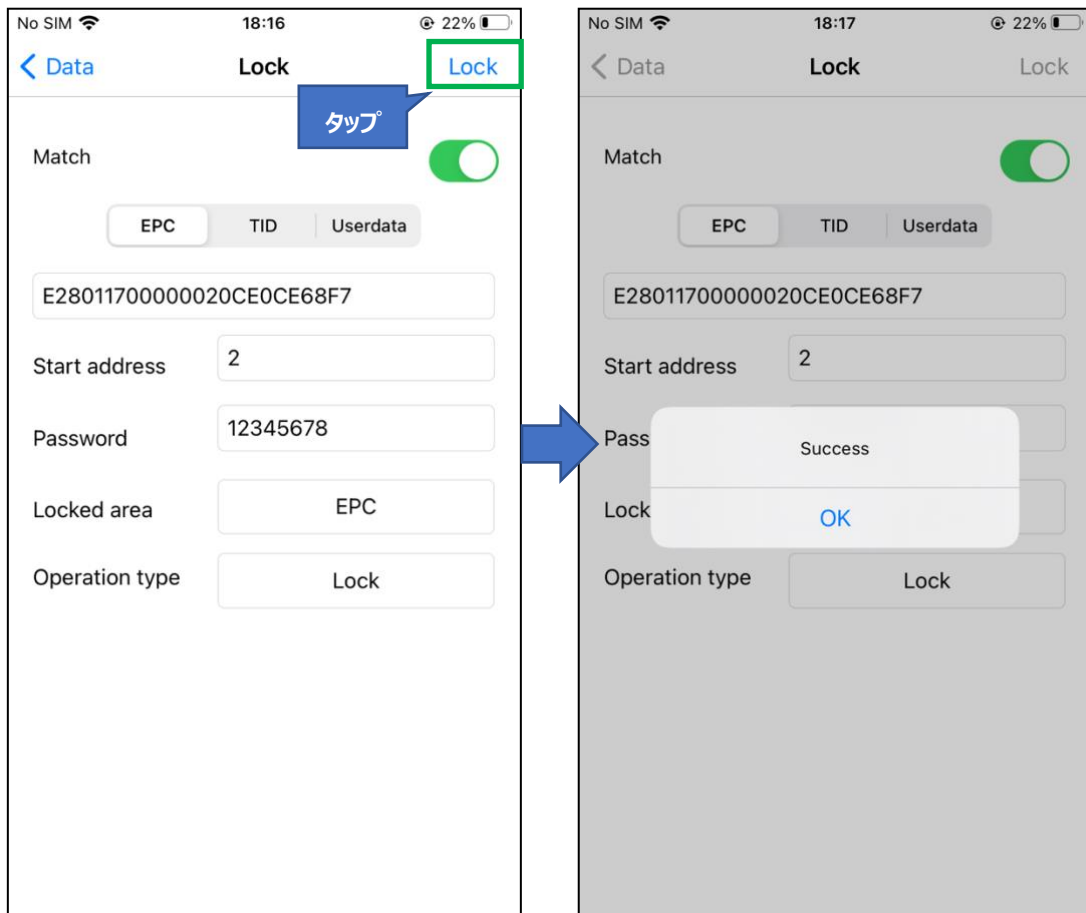
操作タイプを設定します。

- Lock : アクセスパスワードを入力しないとロックされたバンクを書き換えることができません。
- Unlock : バンクがアンロックされた後は、アクセスパスワードを入力しなくても、またはデフォルトアクセスパスワード (00000000) を入力しても書き換えることができます。
- Permanent Locking : 永久ロックされたバンクはアンロックまたは永久アンロックができません。アクセスパスワードを入力しても書き換えることができません。
- Permanent Unlocking : 永久アンロックされたバンクはロックまたは永久ロックができません。

3.6.3. ロック/アンロック/永久ロック/永久アンロック

上記のパラメータを設定した後、「Lock」または「Unlock」ボタンをタップしてロック/アンロック/永久ロック/永久アンロックをします。

Operation type を Lock/PermaLock に選択した場合、ボタン名は Lock と表示します。Operation type を Unlock/PermaUnlock に選択した場合、ボタン名は Unlock と表示します。

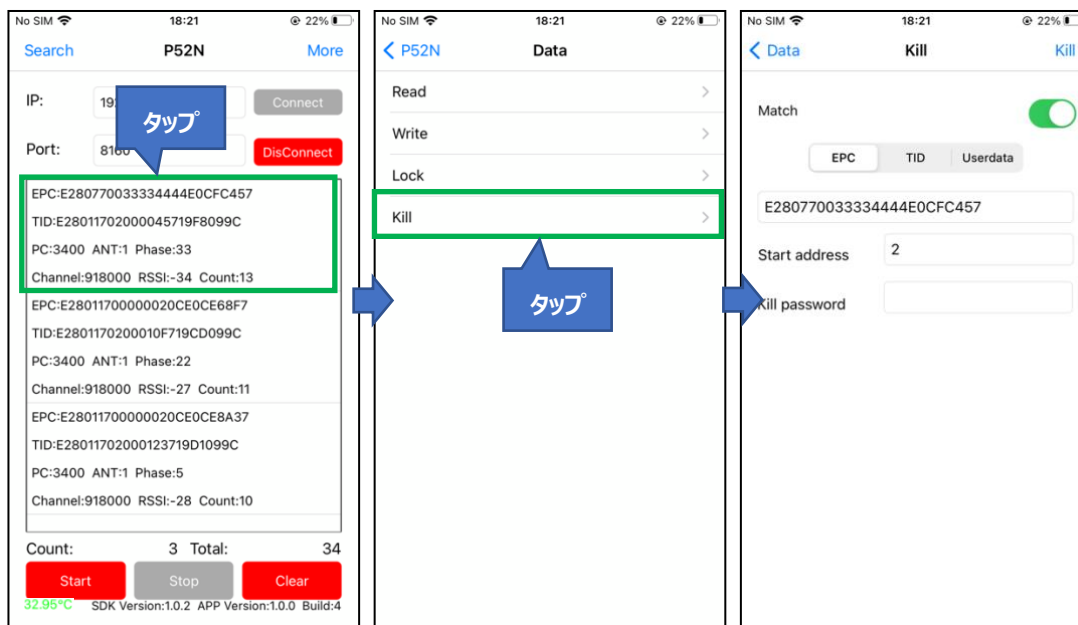


3.7. タグのキル

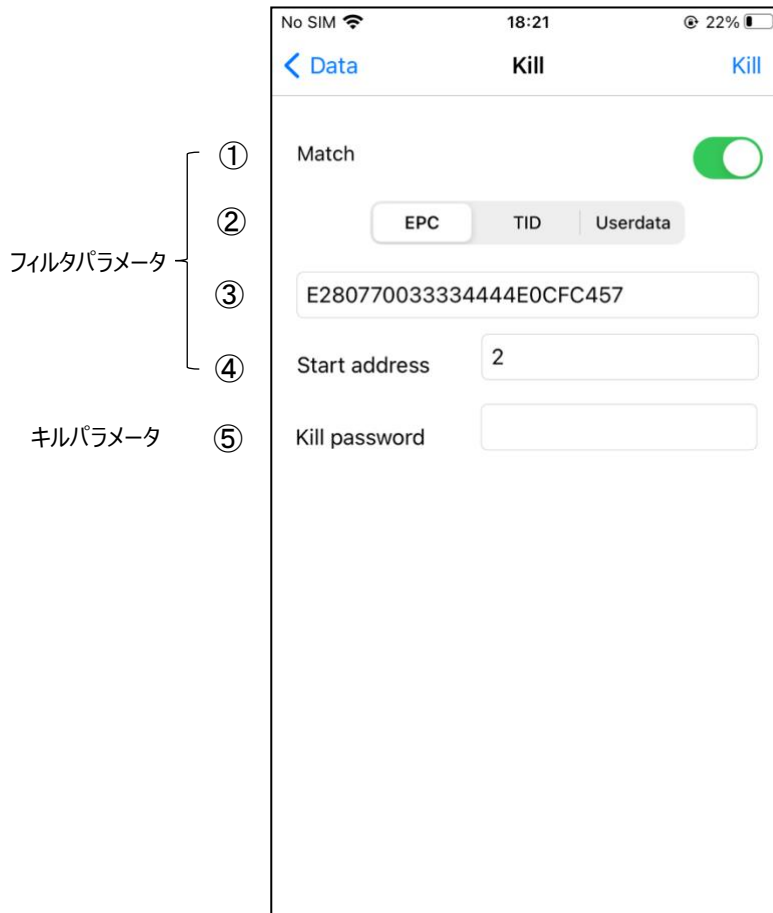
3.7.1. キル画面

タグリストに表示されている任意データをタップして、Read/Write/Lock/Kill 画面に入ります。

「Kill」ボタンをタップして、Kill 画面に入ります。



3.7.2. タグのキルパラメータの設定



① Match

タグがマッチングするかどうかを設定します。

- ON : マッチングする。読み取り範囲内の条件（マッチング条件を含む）を満たすタグに対してキルします。
- OFF : マッチングしない。読み取り範囲内の任意のタグに対してキルします。

② EPC/TID/Userdata

マッチングバンクを設定します。

- EPC バンク
- TID バンク

※More→RFID Settings→Inventory Type を TID または USER に設定すると、TID バンクはマッチング条件として設定可能になります。

- USER バンク

More→RFID Settings→Inventory Type を USER に設定すると、USER バンクはマッチング条件として設定可能になります。

③ マッチング値

マッチング値を設定します。選択した RF タグのマッチングバンク (EPC/TID/Userdata) の値がデフォルトで表示されます。

例：EPC バンクを選択する場合、「E280770033334444E0CFC457」を表示されます。

※入力したデータが WORD 単位でない場合、0 が自動的に後ろに埋められます。

例：1 を入力する場合、1000 でフィルタされます。

④ Start address

マッチング値のスタートアドレスを指定します。単位：ワード (WORD)

- EPC バンク：スタートアドレスは 0 から (デフォルト値：2)
- TID バンク：スタートアドレスは 0 から (デフォルト値：0)
- USER バンク：スタートアドレスは 0 から (デフォルト値：0)

サンプルデータ：

Match を「ON」に設定

EPC/TID/Userdata を「EPC」に設定

マッチング値を「E280770033334444E0CFC457」に設定

Start address を「2」に設定

解析結果：

対象タグの EPC バンクの 2Word から、値は「280770033334444E0CFC457」のタグをキルします。

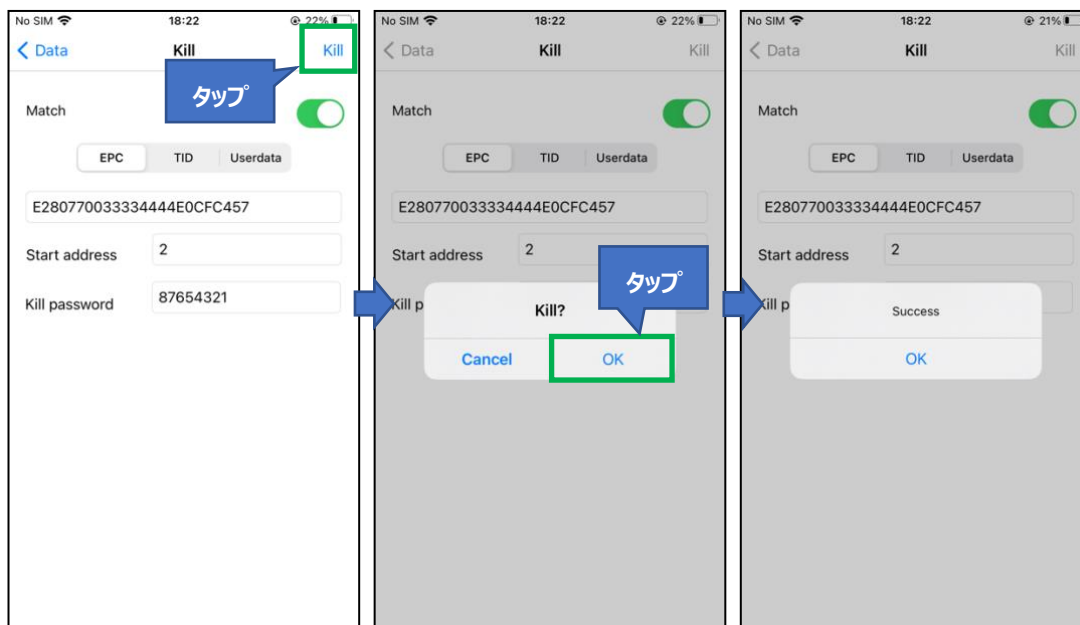
⑤ Kill password

キルパスワードを入力します。

※キルパスワードは初期パスワードの場合、キル操作が実行できません。先にキルパスワードを変更する必要があります。

3.7.3. タグのキル

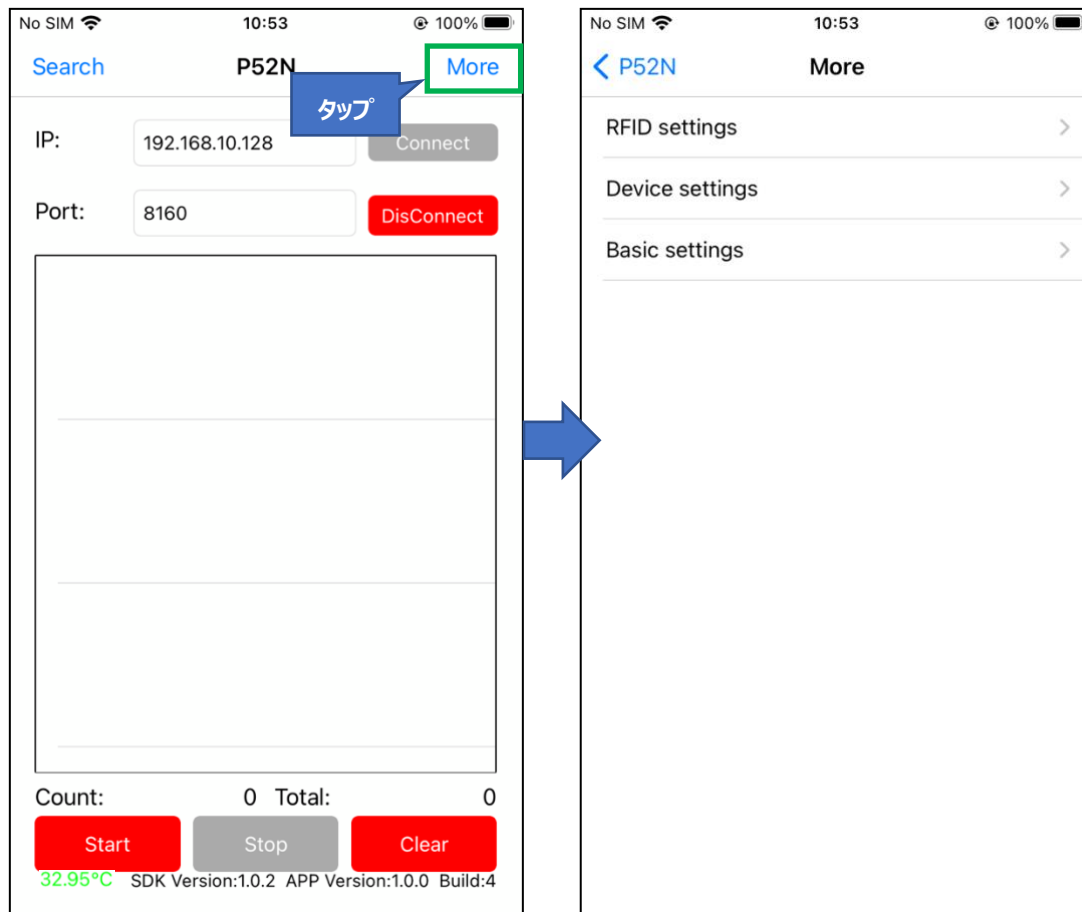
上記のパラメータを設定した後、「Kill」ボタンをタップしてタグをキルします。



4. 設定

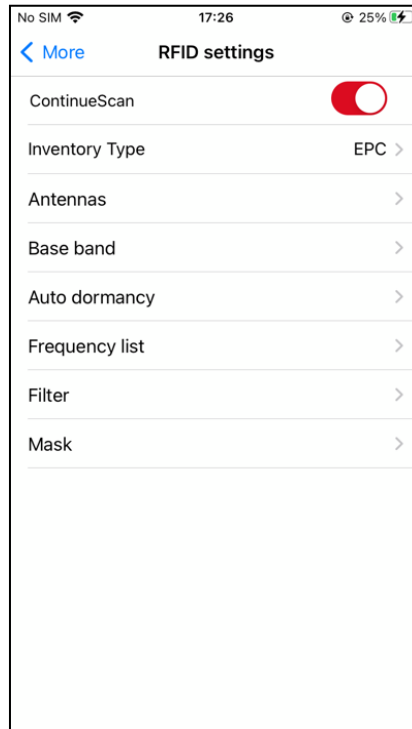
トップ画面の「More」ボタンをタップして、設定リスト画面に入ります。

そして各ボタンをタップして、詳細設定画面に入ります。



4.1. RFID settings

RFID 関連のパラメータを設定します。



4.1.1. ContinueScan

連続して RF タグをインベントリするかどうかを設定します。

- ON : 連続インベントリ。トップ画面の「Start」ボタンをタップしてインベントリを開始します。「Stop」ボタンをタップするまで連続してインベントリを実施します。
- OFF : 単一インベントリ。トップ画面の「Start」ボタンをタップすると、1 回インベントリした後、自動的に停止します。

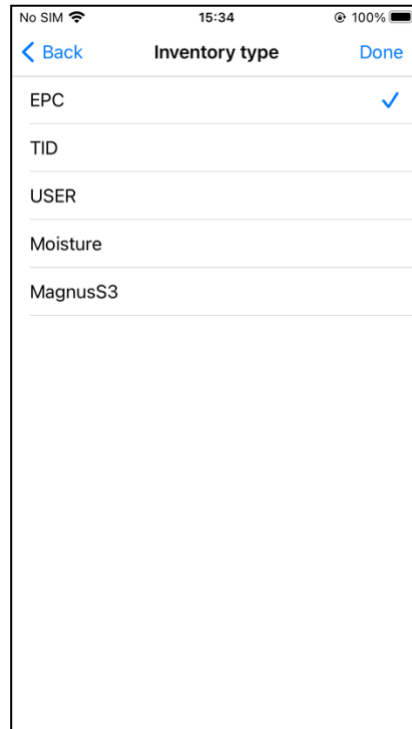
※この設定はアプリケーションに保存されます。

4.1.2. Inventory Type

インベントリ対象タグのタイプとバンクを設定します。

設定項目 : EPC/TID/USER/Moisture/MagnusS3

※この設定はアプリケーションに保存されます。



- EPC : EPC バンクのデータのみインベントリします。トップ画面で RF タグをインベントリした時に、タグリストに EPC データのみ表示されます。TID と USER データを表示されません。

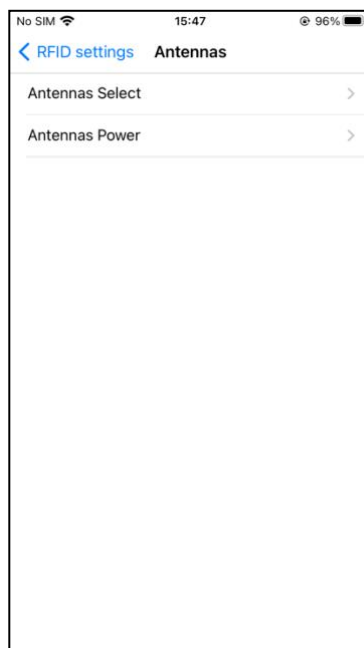
※RF タグのインベントリ操作では、最初にタグの EPC 値を取得し、その後に他のバンクのデータを取得します。

- TID : EPC バンクと TID バンクのデータを読取します。トップ画面で RF タグをインベントリ時、タグリストに EPC バンクと TID バンクのデータを表示します。
- USER : EPC バンクと USER バンクのデータを読取します。トップ画面で RF タグをインベントリ時、タグリストに EPC バンクと USER バンクのデータを表示します。
- Moisture : 湿度タグのデータを読取します。トップ画面で湿度タグをインベントリ時、タグリストに EPC バンクと湿度のデータを表示します。
- MagnusS3 : 湿度タグのデータを読取します。トップ画面で湿度タグをインベントリ時、タグリストに EPC バンクと湿度のデータを表示します。

※湿度タグを読取する場合、More→RFID Settings→Base band を 3 に設定しないでください。

4.1.3. Antennas

インベントリで使用するアンテナポートと電波出力を設定します。

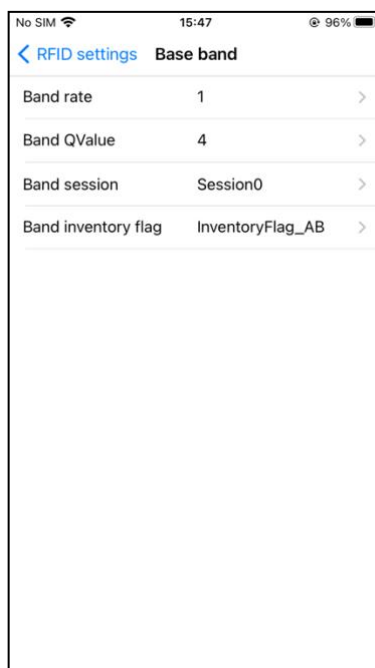


- Antennas Select: インベントリで使用するアンテナポートを設定します。複数選択可能です。
※この設定はアプリケーションに保存されます。
- Antennas Power : 各アンテナポートの電波出力を設定します。範囲：0dBm～36dBm。通常、設定した値が大きいほどインベントリ可能な距離が遠くなります。
※この設定は ASR-P52N に保存されます。

4.1.4. Base band

ベースバンドを設定します。

※この設定は ASR-P52N に保存されます。



- Band rate : ベースバンド

設定項目 : 0/1/2/3/4/Auto

0	イベントリスピードは遅いが、感度が高い
1	密集モード。読取距離が遠く、広い範囲のインベントリに適用
2	効果は 1 に近い
3	高速モード。読取スピードが速く、狭い範囲のインベントリに適用
4	効果は 1 に近い、読取距離は 1 より近い
Auto	オートモード

- Band QValue : Q 値

設定項目 : 0~15

0 : 単一タグの時に設定します

4 : 複数タグの時に設定します

- Band session :

設定項目 : Session0/Session1/Session2/Session3

- Band inventory flag :

設定項目 :

InventoryFlag_A : A 面でインベントリ

InventoryFlag_B : B 面でインベントリ

InventoryFlag_AB : A|B 両面でインベントリ

「Band session」と「Band inventory flag」は組み合わせて設定する必要があります。RF タグの応答時間を調整することができます (応答時間は RF タグの仕様によって異なります)。

RF タグの枚数に応じて下表を参考して設定してください。

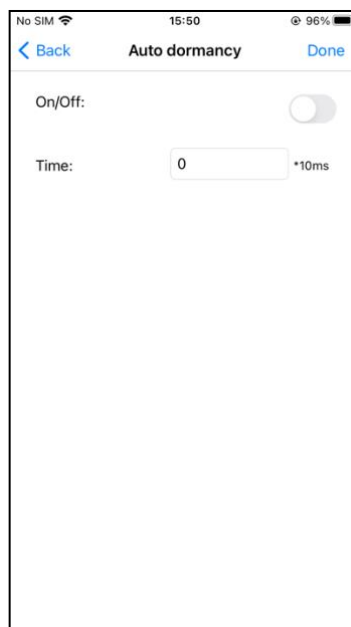
Session Flag	0	1	2	3
A	一度インベントリした RF タグは、電波を受信するとすぐに再度インベントリできる状態になります。	一度インベントリした RF タグは、0.5~5 秒以内に再度インベントリすることができます。		一度インベントリした RF タグは、2~60 秒以内に再度インベントリすることができません。
B	一度インベントリした RF タグは、インベントリを停止して再開するまで再度インベントリすることができません。		一度インベントリした RF タグは、0.5~5 秒以内に再度インベントリすることができません。	Session0 と同様
Flag A&B	一度インベントリした RF タグは、電波を受信するとすぐに再度インベントリできる状態になります。	一度インベントリした RF タグは、0.5~5 秒以内に再度インベントリすることができません。		

4.1.5. Auto dormancy

自動アイドル時間を設定します。

自動アイドル時間とは、ASR-P52N の消費電力節約のために、連続してタグをインベントリする時に、3 ラウンド連続して使用されるすべてのアンテナでタグが認識されない場合、ASR-P52N が自動的に一定時間のアイドル状態に入る時間の事です。アイドル時間が経過すると、ASR-P52N は再度自動的にインベントリします。

※この設定は ASR-P52N に保存されます。

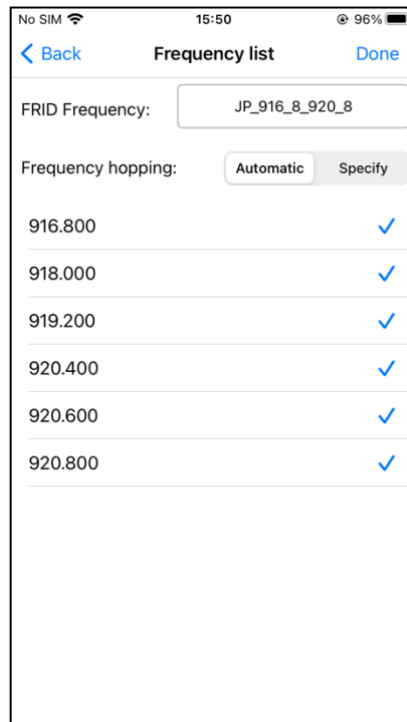


- ON/OFF : 自動アイドル時間は有効するかどうかを設定します。
ON : 有効
OFF : 無効
- Time : 自動アイドル時間を入力します。単位 : 10ms。
例 : 2000 を入力する場合、自動アイドル時間は 20 秒です。

4.1.6. Frequency list

周波数を設定します。

※この設定は ASR-P52N に保存されます。



RFID Frequency : 周波数帯を設定します。周波数帯を選択すると、「Done」をタップしなくても設定されます。

Frequency hopping : 固定周波数またはホッピングを設定します。周波数帯を選択すると、下部の周波数リストに現在の周波数帯の下にあるすべての周波数が表示されます。

ホッピングモードが選択されている場合、周波数リストから周波数を選択する必要はなく、ホッピングはデフォルトで、現在の周波数帯に対応する周波数リストからランダムに選択します。

固定周波数モードが選択されている場合、固定周波数を設定できます。

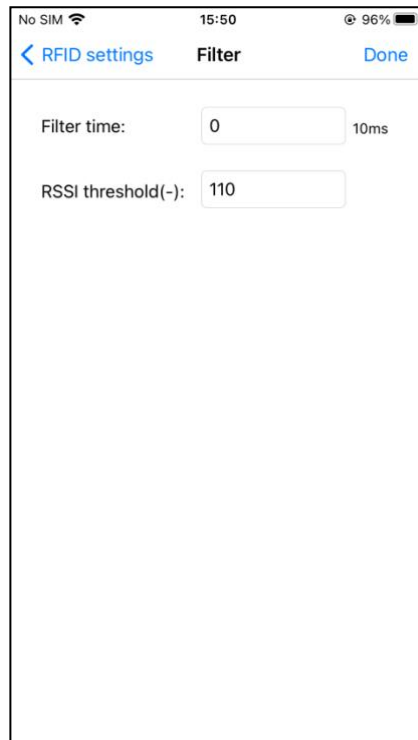
操作手順 :

- ホッピング : Automatic を選択して、「Done」をタップします。
- 固定周波数 : Specify を選択して、周波数リストから周波数（複数選択可）を選択し、「Done」をタップします。

4.1.7. Filter

フィルタパラメータを設定します。

※本ページの設定は ASR-P52N に保存されます。



- Filter time : 1 回のインベントリコマンドの実行サイクルでは、同一タグデータは設定された時間内に 1 回だけ読み取りされます。単位 : 10ms。0 : 制限なし。
例 : 2000 を入力すると、[Start] ボタンをタップしてインベントリを開始した後、同一タグデータが 20 秒以内に 1 回だけ読み取りされます。
- RSSI threshold(-) : タグの RSSI 値（電波強度）が閾値より低い場合、タグデータは読み取りされません。
例 : -60 を入力すると、タグの RSSI 値が-60 以下場合、タグデータは Tag List に表示されません。

4.1.8. Mask

タグをインベントリする時に、フィルタ条件を設定します。フィルタ条件を設定後に、読み取り範囲内でフィルタ条件に一致する RF タグのみインベントリ対象になります。

下図の②マッチングデータと③スタートアドレス両方とも設定する場合、本機能が有効になります。

※本ページの設定は Demo App に保存されます。



① EPC/TID/Userdata

マッチングバンク

- EPC バンク
- TID バンク

※More→RFID Settings→Inventory Type を TID または USER に設定すると、TID バンクはマッチング条件として設定可能になります。

- USER バンク

※More→RFID Settings→Inventory Type を USER に設定すると、USER バンクはマッチング条件として設定可能になります。

② マッチング値

マッチング値を設定します。

※入力したデータが WORD 単位でない場合、0 が自動的に後ろに埋められます。

例：1 を入力する場合、1000 でフィルタされます。

③ Start address

マッチング値のスタートアドレスを指定します。単位：ワード（WORD）。

- EPC バンク：スタートアドレスは 0 から
- TID バンク：スタートアドレスは 0 から
- USER バンク：スタートアドレスは 0 から

サンプルデータ：

EPC/TID/Userdata を「EPC」に設定

マッチング値を「E280」に設定

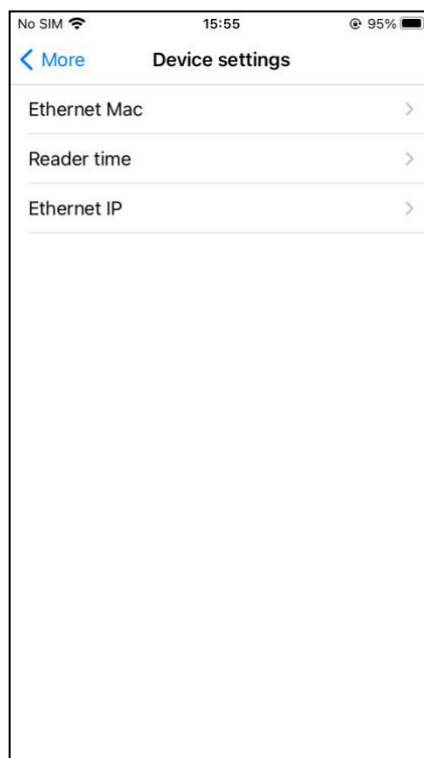
Start address を「2」に設定

解析結果：

対象タグの EPC バンクの 2Word から、値は「E280」のタグを読み取りします。

4.2. Device settings

ASR-P52N に対して設定を行います。



4.2.1. Ethernet Mac

ASR-P52N の Mac アドレスを表示します。

4.2.2. Reader time

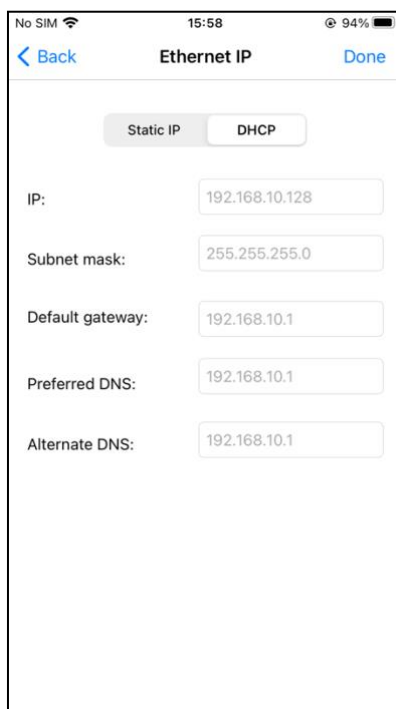
ASR-P52N のシステム時間を設定します。

※この設定は ASR-P52N に保存されます

4.2.3. Ethernet IP

ASR-P52N の IP を設定します。

※この設定は ASR-P52N に保存されます



- Static IP : ASR-P52N を静的 IP に設定します。

操作手順 : Static IP を選択し、以下の情報を入力して「Done」ボタンをタップします。

IP : IP アドレス

Subnet mask : サブネットマスク

Default gateway : デフォルトゲートウェイ

Preferred DNS : 優先 DNS

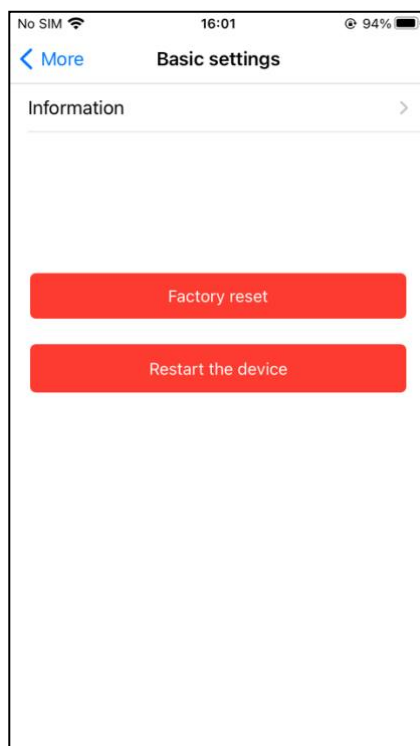
Alternate DNS : 代替 DNS

- DHCP : ASR-P52N を動的 IP に設定します。

操作手順 : DHCP を選択して「Done」ボタンをタップします。

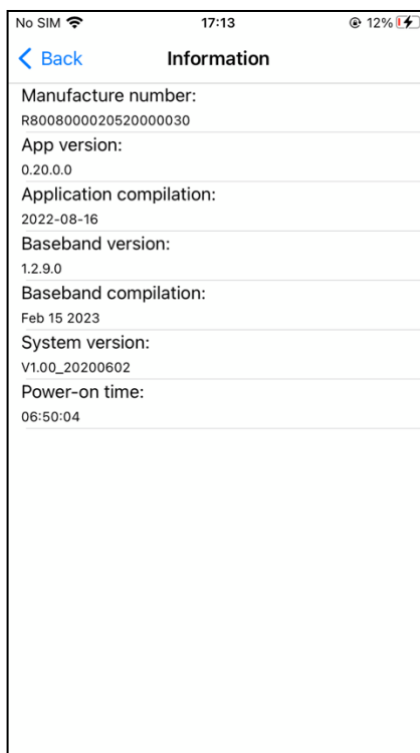
4.3. Basic settings

基本設定



4.3.1. Information

ASR-P52N の基本情報を表示します。



- Manufacture number : ASR-P52N 製造番号
- App version : ASR-P52N アプリケーションバージョン
- Application compilation : ASR-P52N アプリケーションコンパイル日
- Baseband version : ASR-P52N ベースバンドバージョン
- Baseband compilation : ASR-P52N ベースバンドコンパイル日
- System version : ASR-P52N システムバージョン
- Power-on time : ASR-P52N 電源投入時間

4.3.2. Factory reset

工場出荷設定に戻します。このボタンをタップすると、ASR-P52N の工場出荷時の設定に復元します。この操作により、ASR-P52N のすべてのパラメータが工場出荷時の設定に復元されます。ただし、システム時間と MAC アドレスは除きます。

4.3.3. Restart the device

ASR-P52N を再起動します。このボタンをタップすると、ASR-P52N の電源がオフになり、再起動します。

ASR-P52N iOS Demo

ユーザーマニュアル

2023年5月新規作成

株式会社アスタリスク

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島 5-6-16 新大阪大日ビル 201